

Journal Watch の6月下半期の記事から興味深いものを紹介します。

1) Abbreviated vs. Standard DAPT Therapy After PCI

原著: JACC Cardiovasc Interv 2023 April 10

・出血リスクの高い冠動脈疾患患者への、経皮的冠動脈カテーテル治療(PCI)後に行われる抗血小板薬2剤併用療法(DAPT)の期間についての臨床研究 (MASTER DAPT trial)。使用されたステントは生体分解性ポリマーを使用したシロリムス溶出性ステント(テルモ社のUltimasterステント)。世界30カ国140医療機関が参加した。

・4579人の高出血リスク患者をDAPT期間短縮群(1ヶ月後に抗血小板薬1剤へ切り替える)と標準期間群(同3-6ヶ月)にランダム化し、15ヶ月後の複合エンドポイント(NACE: 全死亡+心筋梗塞+脳卒中+BARC分類3-5の出血性イベント, MACCE: 全死亡+心筋梗塞+脳卒中, BARC分類 2,3,5の出血性イベント)について検討した。

・15ヶ月後の時点でNACE, MACEともにDAPT期間短縮群、標準群で有意差を認めず(約7%)、一方で出血性イベントはDAPT期間短縮群で有意に少なかった(7.4% vs. 10.7%)。

訳者コメント:

出血の高リスクPCI患者に対してDAPTを1ヶ月に短縮するエビデンスはほぼ確立されて

いると考えてよいのではないか。今後はどの抗血小板薬を残すのか(カテーテル治療医の中ではアスピリンよりもクロピドグレルやプラスグレルなどのP2Y12ブロッカーを残すのが出血イベント回避に有効と考えられている)が焦点になると思われる。

2) Sulfonylureas and Cardiovascular Outcomes - A Real-World Study

原著: Wang H et al. *Diabetes Care* 2023; 46: 967-977

・イギリス(スコットランド)からの報告。メトホルミン単剤で血糖コントロール不良の患者を対象に、SU剤(約2万人)、DPP-4阻害薬(約1万人)もしくはチアゾリジン誘導体(約2000人)が追加された患者を約4年間追跡した。一次エンドポイントは心血管複合エンドポイント(MACE: 心筋梗塞による入院、脳梗塞、心不全、心血管死)、二次エンドポイントは各エンドポイント+全死亡とした。

・SU剤が追加された患者群は、DPP-4阻害薬やチアゾリジン誘導体が追加された患者群と比してMACE、全死亡ともに有意に高くなかった。

訳者コメント：

メトホルミン単剤で血糖コントロール不良の患者に対して、SU剤による追加治療はDPP-4阻害薬やチアゾリジン誘導体に比して心血管イベントリスクを増大させることはなかった。心血管リスクの高い患者にはSGLT-2阻害薬やGLP-1阻害薬がイベント予防に有効と

されるが、コストが高いことは懸念材料となっている。一方でSU剤は比較的安価な薬剤であり、心血管イベントリスクの低い患者に対しては追加治療の選択肢となりうるだろう。

3) Lifestyle-Related Factors Associated with Gout

原著:

(1) Eun Y et al. Arthritis Rheumatol 2023; 75: 806-815

(2) Han L et al. Arthritis Care Res (Hoboken) 2023; 75: 1079-1087

・(1)は韓国の研究者による、メタボリック症候群患者を4年間追跡した臨床研究。5年間のうち3回繰り返し健診を受けた、痛風歴のない130万人の成人男性(20-39歳)を対象にした。4年間の観察期間中を通じてずっとメタボリック症候群と診断された群はそうでない群に比して痛風を発症する頻度が約4倍高かった。逆に期間中にメタボリック症候群でなくなっただ群は痛風発症が半分であった。

・(2)は中国からの報告で、アルコール摂取量と痛風結節に関する臨床研究。554人の痛風患者を対象に、理学的所見あるいはエコーにて特定された痛風結節の有無とアルコール摂取量とを検討した。その結果、中等量(70g/週)以上のアルコール摂取者、10年以上の長期摂取者、蒸留酒常飲者では約2倍痛風結節を認めることが明らかとなった。

訳者コメント: 痛風への治療介入として、医師はどうしても薬物療法に注目しがちだ

が、生活習慣改善も重視するべきという非常に基本的なことを再認識させてくれたデータである。

以上担当古瀬祥之

以下はタイトルのみです。

4)

脂肪肝診断のための超音波検査は後方視的には感度 89%、特異度 86%
Am J Gastroenterol 2023 May; 118: 840

5)

膵臓がんの治療：個別 mRNA ワクチン+チェックポイント阻害剤は有望。8/16
で消滅した

Nature 2023 May 10;

[e-pub] <https://doi.org/10.1038/d41586-023-01526-8>

6)

地中海式生活スタイルはメタボリック症候群を予防する
J Intern Med 2023 May; 293: 574

7)

若返りは可能か？ 最新鋭の加齢バイオマーカーでは可能
Cell Metab 2023 May 2; 35: 807